

JCI 高温環境下におけるコンクリートの性能評価に関する研究委員会 TC154A

WG1 第4回会議 議事録(案)

日時 : 2015年12月17日(水) 12:30~14:30
場所 : JCI 第No.5会議室
出席者 : 兼松委員長、小沢委員長、森田主査、谷辺幹事、池田委員、Bae 委員、春畑委員、Mihael 委員、岩波委員、内田委員、飯束委員、辻(記録)
配布資料 : WG4-0 議事次第
WG4-1 第3回全体委員会 議事録(案)
WG4-2 爆裂評価実験(案)修正案
WG4-3 JCI 耐火委員会の研究での忠南大学の役割
WG4-4 第1回WG2 議事録(案)
WG4-5 火害後のコンクリートの耐久性WG(WG2)における共通実験(案)

敬称略

(文中敬称略)

議事:

1. 新しいメンバーの紹介

- ・岩波委員より自己紹介があった。

2. 前回議事録の確認(WG4-1) 小澤委員長

- ・前回議事録の確認が行われ、以下を修正の上承認された。
- ・「全体会」の呼び名を「委員会」に修正など(事務局より)

その他追加で兼松委員長より下記連絡事項があった。

- ・WG2の委員に6名追加となった。次回理事会で正式に決定する予定。
- ・下期の予算補正の結果、現在の150万に対し追加50万で計200万円となった。
- ・試験体作成費は75万円支出としてJCI内諾を得ている。
- ・出版時の引用図版について正式な書類がある。
- ・来年3月に委員会(WG1・WG2合同)開催予定。

3. 爆裂評価実験(案)修正案(WG4-2) 小澤委員長

- ・12/9に試験体を製作済
- ・材齢28日試験を1月6・7日、12・13日で予定している。見学希望を後日連絡する。
- ・リング試験は1月6日と1月13日の2日である。旅費は各自負担となる。
- ・各水準10本のTPを分析用として追加で製作している。(兼松)
- ・加熱試験は太平洋マテリアル開発研究所で実施する。(谷辺)
- ・爆裂試験後のφ10×20、□10×10×10の評価項目がどのようなものがあるか意見が欲しい(谷辺)
- ・爆裂試験体の養生方法は加熱直前まで封かんである。試験時に試験体同一養生のφ10×20TPで強度及び含水率を測定する。

4. JCI 耐火委員会の研究での忠南大学の役割(WG4-3) 小澤委員長

- ・10/31（プレーン試験体）と11/13（PP試験体）の2日に分け、忠南大学で試験体を製作済
- ・載荷加熱試験、拘束加熱試験を実施する。
- ・頁1の下図、「リング拘束加熱試験の標準化が目的」は不適切との意見があり、当該委員会での目的は、曝露試験の標準化である旨を確認した。

5. 第1回WG2議事録（案）（WG4-4） 内田委員

- ・前回議事録の概要が説明された。

6. 火害後のコンクリートの耐久性評価WG（WG2）における共通実験（案） 春畑委員

- ・実験概要が説明された。
- ・12/4に試験体作成、2016年3～4月で加熱実験の予定
- ・加熱は目標温度4パターン（コンクリート表面温度300、500、750、950℃）で実施する。
 - 温度でなく時間で水準を振らなかったのはなぜか（森田主査）
 - 加害診断は受熱温度のためである（池田委員）
 - 加熱条件については実験実施まで再考する（内田委員）
- ・想定する構造物・部材はどこか。トンネル内上部の覆工コンクリートのイメージか。（辻委員）
 - 今回はあくまで破壊と非破壊試験の対応実験の位置づけ。（内田委員）
- ・コアは抜くのか（岩波委員）
 - 火害後のコア供試験体による促進中性化など実施してはどうか（兼松委員長）
 - 乾式、湿式の違いなどが影響する可能性がある。

7. 次回の予定

- ・第一候補 3/15PM、第二候補 3/8PMとする。

以上